

水びこ 寶清寺



境内には、毎年沢山の花が咲きます。六十一号より裏面に宝清寺の草花を紹介しています。

お施餓鬼法要

七月十七日(土) 午前十一時よりお施餓鬼法要を厳修致します。お施餓鬼法要にはごなたでも参加できます。新盆にあたる仏様がいらつしやる場合は新盆の方々の合同供養を致しますので是非ご参加下さい。お祈りの用意もあります。また、管理事務所にお花の用意がありますので、お盆の墓参にご利用下さい。

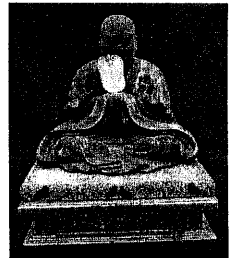
ご先祖様あつての我々ですから、お盆にはご家族で先祖様に感謝の気持ちを入れて墓参するのはもちろんであり、ご先祖様もご家族の守護者となつてご家族を守つてくださると思ひますが、昨今の社会情勢から、人々が生きることの不安や老齢化による健康に対する不安などを抱えて日々過ごしている状況を鑑みて、八幡様の幟、旗の奉納と洗地蔵のたわしと給馬の奉納を考案致しました。奉納により皆様の不安の解消となれば、それが宝清寺のパワースポットとなり皆様の心の安らぎの場となることを願っております。

日蓮聖人遺訓 (二一十一)

「当時は痛けれど後の楽なれば痛くて痛からず」 (聖人御難事) これは「熱原法難」渦中、受難の門弟に伝言された奮起激励の檄文です。無法な迫害の下に身をさらす門弟への憐憫と不法な加圧者国家権力への激怒が記された御書の一節であり、現代人も味わい噛みしめたい一文と思ふ。

八幡大菩薩の幟旗 奉納者の募集

競争社会の荒波に生きる法華経信奉者の守護神八幡大菩薩の幟旗を奉納致します。古くは、応神天皇が賢者であったことより、八幡大菩薩の化身だといわれ尊崇を集めました。また、源平のころには軍神として八幡様が祀られました。現代では、戦争に行く人はいませんが、受験戦争や交通戦争など競争社会の荒波の中で人々は否応なしに日々の生活を強いられています。日蓮聖人は八幡様を法華経信奉者の守護神であると考え、災難から守つてくださる菩薩様だといわれています。宝清寺の八幡堂にはお像ではなく身延山久遠寺から頂いたお札が納めてありますが、宝清寺ではこのような競争社会に負



八幡大菩薩の座像(左写真)を模した八幡大菩薩を作成し、お願いしたいと「たちばな新聞」にて呼びかけましたところ、篤信者より御寄進を賜りました。

八幡大菩薩

以前、お檀家の野村様から自分の家に代々伝わる、実際江戸時代に戦場で使用された八幡大菩薩の幟旗があり、お守りしきれないとの理由で宝清寺に奉納されました。現在、掛け軸にして本堂内右床の間に懸けてあります。(左写真ですが、八の文字が親鳩が小鳩を慈愛の眼差しで見守っているかのように書かれています。)皆様を立てて頂く八幡大菩薩の幟旗の文字は、その掛け軸の文字を使用した「八幡幟旗」になります。「八幡幟旗」の奉納を希望される方はお申し出いただきたくと思ひます。一基につき一万円です。奉納された方には、幟旗の部分に「奉納者名」が記入されます。ただし、「奉納者名」の枠が狭く一基に一人の御芳名とさせて頂きます。

住職ひと口法話 (第二十二)

三菱の創始者である岩崎弥太郎の「岩崎家の家訓」がある。第一条 小事に心うばわれず、大事を行うことを目的とせよ。第二条 ひとたび事をはじめたら、必ずそれに成功せよ。第三条 投機的事業に従事すべからず。第四条 国家の利益を心において、すべての事業を行へ。第五条 公共奉仕とまことの純粋な精神を忘れるな。第六条 仕事に精を出し、儉約し、他人に思いやりあれ。第七条 適材を適所に用いよ。第八条 雇人をよく取り扱え。第九条 ことを始めるにあたっては大胆に、その実行には細心であれ。

の九箇条である。岩崎弥太郎は土佐藩の武士であったが、この家訓は仏教そのものといつてよい。「岩崎家の家訓」は今でも三菱の社則として大切に守られているのである。「ことばはやさしいが、大局的な立場に立つて、国と社会の恩に報いるために努力しよう」という決意のほどがよく分かる。「訓」というのは、「いましめ」である。仏教では「戒」という。「自分で自分を戒めること」である。現代人の意識の中に、国と社会のこと憂え、自分自身の生き方を律している人が何人いるだろうか。世の中の政治も経済も教育も近隣の付き合いも、昔あった良さが失われ人々は方向性を失って右往左往しているようである。今こそ、「家訓」「座右の銘」呼び名はともかく、「自分はこう生きるのだ」との方向性をしっかり確認しておく必要があるのではないだろうか。



寺では人々の苦しみを取り除いてくれる菩薩として浄行菩薩様をお祀りしています。

また、浄行様が祀られているお堂(浄行堂)は古くから「洗い地蔵」として地域の信仰を集め、自分の身体の悪い部分と、浄行様の同じ部分を「たわし」でこすると病気が平癒したといわれ、その「たわし」を浄行様に奉納していく方が今でもあつてたちません。最近になって「浄行様に奉納するたわしはありますか」との問い合わせが多くなりましたので、奉納用の「たわし」をご用意しました。そのたわしには給馬が付いており、たわしで浄行様に治してもらいたい部分をさすり、給馬に願目をお書きになり奉納してください。給馬付きのたわしは宝清寺のオリジナルで千円です。お申し込み方法は、お電話、FAX、eメールにて受付をいたします。連絡先は「たちばな新聞」表面下及び裏面をご覧ください。

浄行菩薩(洗い地蔵) 給馬奉納祈願者募集 宝清寺では昔から身体の悪い部分をたわしでこすると治るといって洗い地蔵の根拠が信仰があります。法華経には数多くの菩薩様が登場します。中でも上座に位置するのが、上行菩薩・無辺行菩薩・浄行菩薩・安立行菩薩の四菩薩です。この四菩薩は、お釈迦様が涅槃に入られたあと、次の仏様がこの世に登場するまで衆生を救済する役割を担っています。日蓮聖人は法華経に説かれる多くの法難に遭遇し、自身は上行菩薩様の化身であること自覚されました。宝清寺に奉安されている浄行菩薩は衆生を浄化する菩薩だといわれ、宝清寺では人々の苦しみを取り除いてくれる菩薩として浄行菩薩様をお祀りしています。

宝清寺年中行事

三月 彼岸中日・塔婆供養
 四月 八日・花祭
 七月 十七日・孟蘭盆会供養
 七月 十七日・お施餓鬼法要
 九月 彼岸中日・塔婆供養
 十月 十二日・お会式法要

日蓮宗の聖日

二月 十五日・釈尊涅槃会
 四月 十六日・釈尊降誕会
 四月 二十八日・立教開宗会
 五月 十二日・伊豆法難会
 五月 十七日・身延御入山会
 七月 八日・本尊始願会
 八月 二十七日・龍葉谷法難会
 九月 十八日・池上御入山会
 九月 十八日・宗祖御入山会
 十一月 十一日・小松原法難会

御祈願・御供養

交商虫方除星安開
 通繁盛安
 売 位 祈
 厄 祈
 運産
 守守祭願除封願全

宝清寺では、花祭り(灌仏会)、お盆(孟蘭盆会)の施餓鬼法要、日蓮聖人のお会式を毎年盛大に厳修しております。
 このほかにも諸祈願や自動車のお祓いや、年忌供養・祥月命日供養・月命日供養等も行っております。詳しくは寺務所までご相談ください。

お盆の話

日蓮聖人はお盆について、「孟蘭盆御書」をお書きになりました。その中で、
 お釈迦様の弟子で神通力第一の日蓮尊者についてお話しをされています。
 日蓮尊者のお母さんは餓鬼の罪で餓鬼界に落とされたと言っております。



尊者には、なに不自由なく与えたのですが、それ以外の人々には施しを一切しなかつたそうです。
 目連尊者は餓鬼界に落とされた母親を嘆き、お釈迦様に助ける方法を相談をしました。すると、お釈迦様はお盆の時、僧侶にお経を上げてもらうと救われると言われました。

お盆は、仏教にとって大切な行事であり、今年新盆を迎える方は是非、お勤めをお勧めいたします。

健康の秘訣

「たちばな新聞」は一月、三月、七月、九月の年四回発行しておりますが、これは宝清寺の行事と密接に関係しているため、三月に発行したあと、梅雨を通りこして七月号になってしまいうので梅雨に関するお話しはあまりできませんでした。

インドの梅雨は以外と長く、この時期に僧侶は外に出て鉢に行かれないため、僧坊(祇園精舎など)で修行する期間(雨安居)としております。これは、雨が降り続くだけでなく、朝と昼間の温度差が激しい時期で、カビやダニが繁殖し、体調不良になることが多いからだそうです。最近では、エアコンの性能もよくなり除湿や加湿機能もついた便利なエアコンも販売されています。

夏場の室内の温度をあまり低く設定するの温度に適切にならずして身体が周りの温度に適応しなくなってしまうそうです。また冬場の室温を高く設定するのもよくなく、免疫能力が低下してしまうそうです。それでは、なん度に設定すればよいのかといえば、冷房は外気との温度差を五度以内で抑えるのが理想的だそうです。外気温三十二度の日に、室温を二十七度にしてもあまり涼しさを感じにくいかもしれません。除湿の効果もあり、部屋の風通しをよくすれば汗ばむこともなく、カビやダニが繁殖しやすいため、時期に増殖も抑えることができます。

仏様の話し

今号の表面に、浄行菩薩様のお話しがありまして、今回の「仏様の話し」は地藏菩薩について少しお話しをしたいと思っております。地藏菩薩は古いインドの言葉で、クシテイ・ガルバという名前です。「クシテイ」とは「大地」、「ガルバ」は「胎内」という意味で、大地の胎内を「地藏」と訳したようです。法華経でも「地涌の菩薩」として地中から菩薩が登場する場面があり、菩薩全般の名称が「地藏菩薩」で、その中の一人が浄行菩薩様なのです。

また、大地は全ての生命を育むもので、我々人類も大地の恩恵をうけて生きていくことを考えると、地藏菩薩に生かされていることになり、大地に生きていく我々も地藏菩薩になりうるので、お寺に行くとき入り口付近に地藏菩薩が六人立っている姿を見かけた方もあると思います。この六地藏は意味があつて六人なのです。六とは六界を意味し、下から地獄界・餓鬼界・畜生界・修羅界・人界・天界を指します。この六界を仏教では六道と呼び輪廻転生する世界で、苦しみがつきまとう世界だと言われています。この苦しみみの世界にわざわざ登場し救済してくださるのが地藏菩薩なのです。また菩薩の実踐徳目(修行として行わなければならないこと)として布施・持戒・忍辱・精進・智慧の六つがあり、この六つを六波羅蜜と呼びます。

「小さい手あわせて、野辺の花一輪」

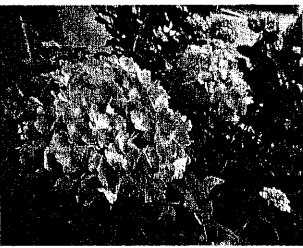


宝清寺の草花

梅雨の時期、紫陽花(あじさい)で有名なお寺に散策に出かけるすがたをよくテレビで見かける。宝清寺でも紫陽花はあるがテレビに出るほど多くはないが、紫陽花にはめずらしく一カ所だけ、紫、桃色、淡い白とピンクの混じつたものなど、色とりどりの花が見られるのである。紫陽花の価値があると思う。紫陽花は七変化する花で、土壌の成分によってその色合いがかわる。また、「あじさい」の名は「藍色が集まったもの」を意味する「あづさい(集真藍)」が訛つたものと言われ、藍色が基本的な色なのかもしれない。「紫陽花」の名称は、唐代の詩人、白居易が命名した別の紫の花のことで、平安時代の学者、源順(みなもとのしたこう)が今の「あじさい」にこの漢字をあてたため誤用がひろまってしまったらしい。



読めば「紫陽花」と言ってしまうだろう。



発行・水谷山宝清寺
 住所・東京都あきる野市小川一〇一
 電話・042-5558-2663
 FAX・042-5558-2693
 インターネット・ホームページ
<http://www.ab.aunone-net.jp/~housseiji/>
 メールアドレス
housseiji@ac.aunone-net.jp